

Macの長期的な節約効果： ライフサイクルという 観点からのアプローチ

概要

企業でのMac導入は、デバイスのライフサイクル全体にわたり、コスト効率と運用効率の両面で優れた効果をもたらします。金銭面では、Macの方がROIが高く、デバイス1台あたりのコストも小さくなる傾向にあります。運用面では、サポートチケットの件数減少、データ侵害のリスク低下、従業員の生産性向上などの効果が期待できます。

はじめに

人間は習慣の生き物であり、家から車、服や電話まで、さまざまなものに対して一定の好みがあるものです。たとえば、車はセダンしか乗らないという人もいれば、アプリはフォルダに整理しておくのが好きだという人もいます。ナチュラルカラーしか着たくないという人もいるでしょう。このような日々の選択が習慣となり、その習慣が環境となって、人類は繁栄を遂げてきました。

仕事も同じです。オフィスの設定、立地、デバイス、ツールがニーズに合っていれば、仕事の効率が高まります。そのような観点から現在、「業務用デバイスの従業員選択制度」を導入する組織が増えています。この制度を導入している組織では、働く人が使うデバイスを自ら選択できます。よくあるのは、WindowsコンピュータとMacコンピュータのいずれかが選べるというパターンです。

Macの人気はますます高まっています。調査会社Omdiaのレポートによると、2025年第3四半期におけるAppleのMac出荷台数は約660万台で、前年同期比4.3%の増加を記録し、同四半期の世界PC市場におけるシェアは9%に達しました。Macの機能性や使いやすさが評価され、ユーザの支持が広がる中、企業もこうした動向に対応し始めています。

しかし、これだけの理由で企業がMacを導入する決断に至るのでしょうか？特にコスト面を懸念する声は多く聞かれます。Macは、（デバイスにもよりますが）一般にWindows PCよりも初期費用が高い傾向にあるからです。もっとも、検討すべきは初期費用だけではありません。Mac所有者がデバイスのライフサイクル全体にわたって享受しているメリットにも目を向ける必要があります。具体的には、TCO（総保有コスト）とROI（投資利益率）です。

この資料では、Macのデバイスライフサイクルに沿って、その各段階で組織のコスト削減にどのように貢献するかを詳しく解説します。

- ・ 従業員の効率アップ
- ・ ITサポート担当者とIT管理者の負担軽減
- ・ セキュリティインシデントの減少

Macに関してよくある誤解



誤解1

Macデバイスは高すぎる

Macの初期費用は一部のPCと比べて高くなる場合がありますが、運用を通じてその差はすぐに取り戻せます。Macデバイスは寿命が長く、従業員の業務効率化に寄与するほか、必要なITサポートも少ない傾向にあります。また、時間が経っても価値が落ちにくい点も魅力です。



誤解2

Macは業務利用に適さない

Macは、モバイルデバイス管理(MDM)、シングルサインオン、自動コンプライアンス対応、ID&アクセス管理といった各種ツールと連携することで、企業のIT環境にスムーズに統合できます。また、大規模な導入については、Macの方が簡単なことすら少なくありません。



誤解3

Macデバイスはセキュリティの確保が難しい

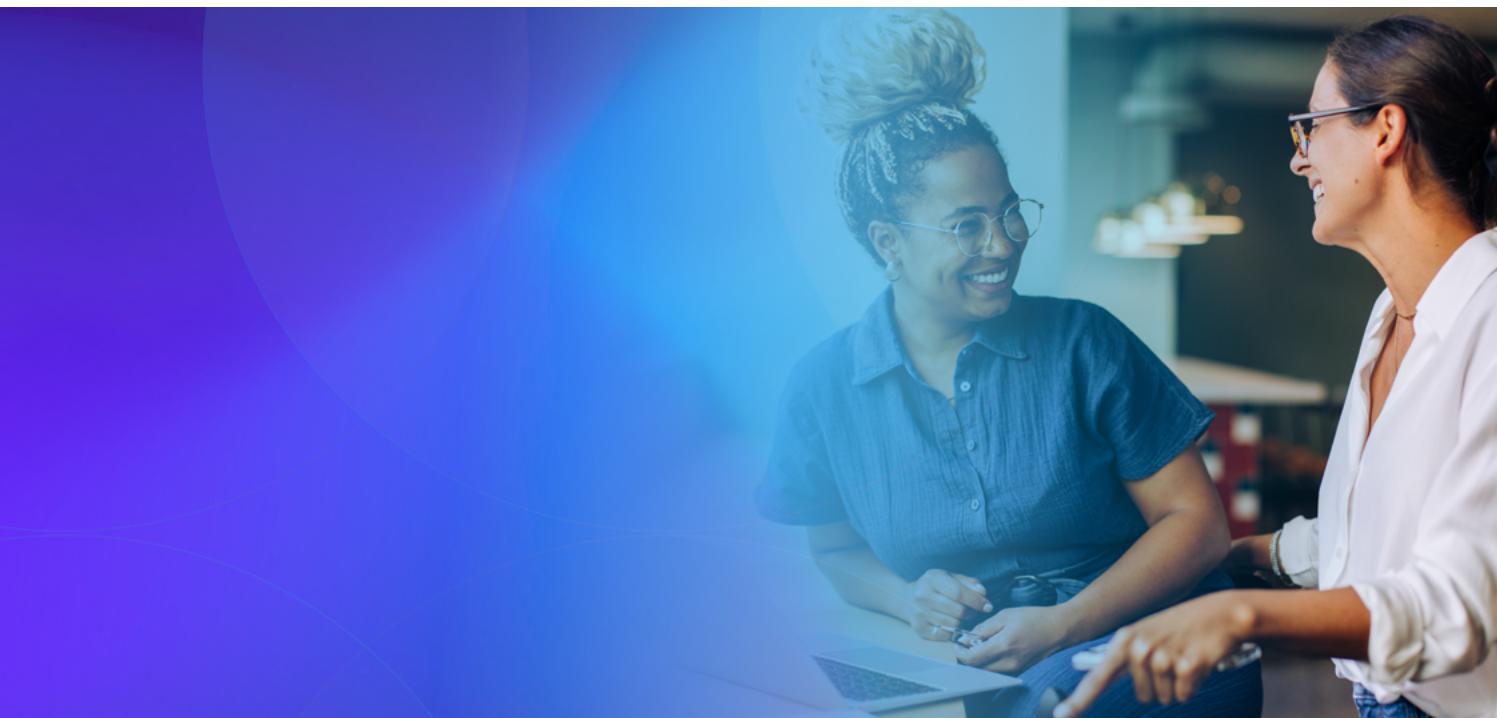
macOSはセキュリティを念頭に開発されているので、FileVault、Gatekeeper、XProtectなどの機能が利用できます。また、AppleのエンドポイントセキュリティAPIを使ってエンドポイントセキュリティツールを構築すれば、ユーザの生産性を保ったまま、組織内のデバイスを積極的に保護できます。さらに、Apple製品に特化したツールを使って可視性やコンプライアンスを強化したり、Macに対する影響の大きな脅威からデバイスを保護したりすることもできます。



誤解4

MacデバイスはWindowsと共存できない

異なるOSを共存させる必要がある企業においても、MacはWindowsベースの環境に無理なく統合できます。Microsoft 365の主要アプリ(Outlook、Teams、Wordなど)はMac App Storeから利用可能で、Mac環境でも業務を中断することなく継続できます。また、Jamfのような、Appleの宣言的デバイス管理フレームワークとエンドポイントセキュリティAPIをベースとしたデバイス管理・セキュリティツールにより、Macは既存のITツールやIDプロバイダー、SIEMシステムと連携し、スムーズな業務プロセスと従業員の生産性を維持します。



Macのライフサイクルを分析する

2024年4月、Forrester社が「[ビジネス向けApple MacのTotal Economic Impact](#)」と題した調査結果を発表しました。この調査は、Macを導入することで企業が得られるコスト削減効果とビジネス上のメリットについて調べたものであり、多数の組織の結果を集計して、1つのモデル企業としてのデータを示しています。

このほか、2023年のJamf Nation User Conference (JNUC)においては、Cisco社でSVP兼CIOを務める Fletcher Previn氏より、[業務用デバイスの従業員選択制度にMacデバイスを追加した結果](#)についてお話をいただきました。

以後のセクションでは、上に挙げた調査および発表の内容から結果を引用します。

計画と調達

標準構成

Macのソフトウェアとハードウェアは設計者が同一です。そのため、相互に補完し合い、最大限のパフォーマンスを発揮することができます。また、オペレーティングシステムソフトウェアのライセンス料を節約できるだけでなく、Appleから直接購入する場合でも、正規販売代理店から購入する場合でも、購入がシンプルに済ませられる点も魅力です。結果として、IT部門は、自社のソフトウェアスタックに適合するハードウェアの選定にかかる時間を短縮できるようになります。

初期設定

ゼロタッチ導入

macOSとモバイルデバイス管理 (MDM) ソリューションを組み合わせれば、初期設定を完全に自動化し、すばやく完了できます。Apple Business Manager (ABM) や Apple School Manager (ASM) と連携することで、MDMを活用したゼロタッチ導入が可能になります。デバイスはユーザに直接出荷され、自動で管理対象として登録・設定され、セキュリティ設定やポリシー、必要なアプリが適用された状態で使用を開始できます。ゼロタッチ導入では、アプリやブックの割り当てをABMとASM、導入とコンプライアンスの管理をMDMが、それぞれ担当します。その結果、オンボーディング作業が効率化され、セキュリティ体制が強化されるとともに、IT部門と従業員はより重要な業務に専念できるようになります。

交換サイクルの長さ

Forrester社の調査では、Macデバイスは高品質で耐久性に優れているため、寿命が長いという結果が得られています。調査によると、Macはパフォーマンスの低下が緩やかで、従来のデバイスと比べて[約13か月長く使用できる](#)ことが示されています。デバイスのパフォーマンスが長期にわたり維持されるのであれば、従業員もデバイスを生産的に活用できます。さらに、更新サイクルを柔軟に延ばすことで、1台あたりのコスト効率をさらに高めることができます。

直感的なユーザエクスペリエンス

Macは幅広いワークフローやユーザインターフェイスデザインに対応しており、アプリのダウンロードからOSのアップデートまで、直感的に作業を進められます。プラットフォームのネイティブエクスペリエンスとユーザフレンドリーなデザインで、どんなMacユーザでも生産性を落とさずに業務を遂行できます。



メンテナンス

サポートコストの削減

Forrester社の調査では、Macを採用した場合、デバイスのサポートおよび管理にかかる費用の**約3分の1を節約**できることが明らかになりました。Macは運用コストが低く、モデル企業では、他のデバイスと比べて1台あたりの**年間サポート件数が60%少ない**という結果が示されています。また、IT従業員がデバイス管理に費やす時間が短くなり、1名あたりに**管理できるデバイスの数が2倍**になる効果もあります。すべてを合計すると、このモデル企業の場合には5年間で**730万ドル超を節約**できました。

セキュリティインシデントの減少

Appleは、デバイスセキュリティを念頭にMacを設計しています。MacにはFileVault暗号化、Gatekeeper、生体認証など、各種のセキュリティ機能が内蔵されているため、セキュリティの基盤として非常に優秀です。そのため、Forresterの調査に参加した組織では、Macを使用することでデータ侵害のリスクが**最大90%低下**し、必要なセキュリティアプリケーションの数もWindows PCよりも少ないため、さらなるコスト削減につながると報告されています。

OSアップデートの効率化

Macでは、新バージョンのオペレーティングシステムにアップグレードする場合でも、エンタープライズライセンスに関するさまざまな調整をする必要はありません。Windows場合には通常、OSを対象としたエンタープライズライセンスのサブスクリプションを購入する必要があるので、手続きが複雑であるうえにコストもかかります。これに対して、macOSはどのAppleデバイスにも付属しているので、有償のライセンスまたはプランを購入する必要はありません。また、Macには緊急セキュリティ対応の仕組みも用意されており、営業時間中に中断を発生させることなく重要なセキュリティアップデートを適用できるため、デバイスが安全に保たれます。アプリとOSの両方において、管理者は対象デバイスに対してMDMを通じて迅速にアップデートを配信でき、従来の更新作業に伴う複雑さや運用負荷を軽減できます。

従業員の効率アップ

多くの従業員がMacを選ぶのは、シンプルにmacOSを使うのが好きだからです。**SAP**、**Cisco**など、従業員用デバイスにMacの選択肢を用意した企業は、従業員のデバイスの使い方に良い変化が出てきたことを実感しています。使用するデバイスが好きなら、生産性も業務効率もアップするのです。

実際、Cisco社がデバイスの選択肢にMacを追加したところ、大部分の従業員がMacを選びました。このことは、生産性に大きな恩恵をもたらしました。Macユーザーには、他のPCのユーザーを上回るパフォーマンスを發揮する傾向がみられたのです。具体的には、同社の営業チームのMacユーザーは、案件登録数が**9.8%**、商談予約件数が**10.9%**、それ増えたほか、案件成約のスピードも**9.9%向上**しました。コスト削減に対する貢献度は非常に高く、見過ごせない要素です。

廃棄処理とリサイクル

ロック機能／ワイプ機能内蔵

デバイスの紛失や盗難は、データ侵害につながる大きな問題です。Forrester社の調査では、Macの場合、デバイスの紛失および盗難に起因するデータ漏えいのリスクが90%低下することがわかりました。MDMに登録されているMacデバイスをリモートでロックまたはワイプできるようにしておけば、データの保護はさらに容易になります。

再販価値の高さ

Forrester社の調査ではほかにも、Macデバイスの場合、使用開始から4年後の時点で、当初の価額の30%もの価値が残ることがわかりました。残存価値が15%とされる企業向けPCと比較して、Macは5年目のリプレース時において、調査対象のコンポジット企業に約50万ドルのコスト削減効果をもたらしました。

同調査によると、Macデバイスを5年間使用した場合、1台あたりの**TCOの削減幅は547ドル**にのぼりました。これは、**ROIにして186%**に相当する数字です。

導入事例：Macでコスト削減を実現した組織

SAP

SAP社は、世界各地で導入されているソフトウェアの開発を手がける多国籍企業です。全世界で10万人を超える従業員を抱える同社では、業務用デバイスの従業員選択制度の導入以来、3万人以上がMacを選択してきました。同社は、従業員が使用するデバイスを自ら選べるようにすれば、従業員の「**可能性を最大限に引き出せる**」ことがわかったといいます。

「SAPでは、従業員一人ひとりが、Macを含めた好きなデバイスを選んで業務に使用できます。当社の従業員の豊富な知識、高度な生産性、仕事に対する満足度の高さを見れば、良い効果があるのは自明でしょう。」

— Thomas Saueressig氏、SAP SE社、SAP製品エンジニアリング担当取締役

Cisco

Cisco社は13万人以上の従業員を抱えるネットワーク機器メーカーです。CIOのFletcher Previn氏は、過去にIBM社で**業務用デバイスの従業員選択制度を導入し、成功に導いた**経験があります。Cisco社では現在、従業員の60%がMacを使用しており、営業チームとソフトウェアエンジニアリングチームで生産性を大きく向上させていることがわかっています。また、3年間使用した場合、**Macの方がTCOが148～395ドル安くなる**という効果もありました。

「Ciscoでは、従業員が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、Macの活用体験を再構築しています。グローバルかつハイブリッドな働き方を支える強固な業務用デバイスの従業員選択制度の展開にあたり、Jamf Proのような頼りになるソリューションがあることはとても心強いです。」

— Fletcher Previn氏、Cisco社CIO

Scrive

Scrive社は、電子署名とIDに関する事業を展開するグローバル企業です。急速に事業を拡大していくなかで、成長を続けていくためにデバイスをどうするかが課題でした。JamfとMacを導入した結果、デバイスの初期設定から構成、展開までをシームレスに進められるようになりました。時間と費用を節約することに成功しました。

「ノートパソコン1台あたり、手動の初期設定に比べて1日以上の時間を節約できました。今では、ユーザ名とパスワードを作成するだけで、新規採用した従業員に業務を始めてもらうことができます。」

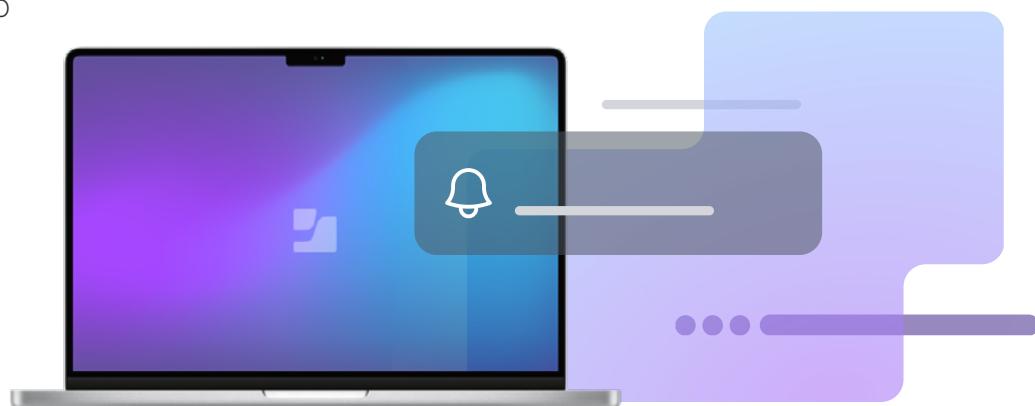
— Tage Borg氏、Scrive社CTO

Pennylane

Pennylane社は、ビジネスリーダーおよびその経理担当者に向けた財務管理・会計処理プラットフォームを展開している企業です。同社の特色の1つが、従業員の多くがヨーロッパ全土にわたってリモート勤務していることです。同社はかつて業務用デバイスの従業員選択制度を導入しており、選択肢として、PC / Chromebook / Mac を用意していました。現在では、機能とコスト削減の観点から、全社的にMacデバイスに移行しています。

「Appleを採用したのは、Appleという会社も、そのデバイスも安定していて安心できると感じられたからです。Apple製品は、コスト、性能、耐久性のいずれも他を上回っています。」

— Thomas Piault氏、Pennylane社ITマネージャー



Macで長期的な節約を実現

これまでに説明してきたとおり、組織が従業員にMacデバイスを使う選択肢を与えることには、以下のようなメリットがあります。

- サポートチケットの件数減少、管理コストの削減
- 従業員の生産性向上
- データ侵害のリスクの低下
- TCOの削減およびROIの向上

上に挙げたメリットの一部は、MDMやセキュリティソフトウェアなど、Macデバイスの管理に採用する方法・手段に起因しています。

AppleファーストのMDMおよびセキュリティソリューションを採用すれば、組織のMacデバイスの管理を最適化できます。Jamfでは、Macデバイスをライフサイクル全体にわたり最大限活用していくうえで役立つ便利なツールを各種ご用意しています。具体的には、以下のような機能やツールをご利用いただけます。

- 自動登録とゼロタッチ導入によるシームレスなオンボーディング機能
- 多種多様な統合に対応したシンプルで安全な管理ツール
- 堅牢なアプリ導入ツールおよびパッチ管理ツール
- 最先端のエンドポイントセキュリティおよび脅威防御機能
- 包括的なインベントリ、レポート、ログ、監査機能

